

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501084		
法人名	有限会社 北海道ふれあいの家		
事業所名	グループホーム ふれあいの家・月寒		
所在地	札幌市豊平区福住1条1丁目9番24号		
自己評価作成日	平成28年10月8日	評価結果市町村受理日	平成28年11月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=tr ue&JigyosyoCd=0170501084-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは豊平区福住地下鉄駅から徒歩3分ほどの閑静な住宅街にあります。古民家を改修した、定員7名で利用者様は、女性だけのこじんまりとしたグループホームです。広い庭には、春の梅から始まり、桜、つつじ、石楠花と秋まで花が咲き誇っております。庭の片隅には、野菜を植えております。利用者様と収穫し新鮮な野菜と一緒に調理し又、食材は、産地にこだわったものを使い毎日が手作り料理です。家庭的な雰囲気の中でゆっくりと女性だけのスタッフと生活しております。町内会、近隣の皆様とも仲良くさせていただき優しく見守って頂いております。近くには桜の名所の公園、大型店舗、ケーキ屋等があり散歩がてらの買い物やお茶を楽しむことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄駅に近く、大型商業施設や公園もあり、買い物や散歩に便利な住宅街に立地する開設17年目の事業所である。古民家を改修しているため、広い庭と家庭的な温かい雰囲気が独特である。町内会及び事業所の行事、活動を通じ、地域住民からの深い理解と繋がりが得られている。運営推進会議にも地域住民、家族、職員と多数の参加がある。家族も頻繁に来訪し、忌憚なく意見、要望が出されるなど信頼関係が築かれている。記録については、個別記録と介護計画との連動性が分かり易いよう、事業所独自の書式を工夫している。食事は利用者の要望を反映しつつその日に献立を決定し、買い物や調理等職員と利用者が共に行い、吟味された食材でおいしい食事が提供されている。ケアにおいては理念である「思いやりの心」を念頭に、利用者一人ひとりの生活歴や思い、意向を尊重するケアに努めている。利用者や職員の明るく穏やかな会話から、良好な関係を感じることができる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念である「思いやりの心」を基本とし利用者に寄り添った介護サービスに努めている	開設時に作成した事業所独自の理念を玄関に掲示している。管理者は内部会議の中で利用者に寄り添う姿勢の重要性について職員に話し、理念の共有と実践に努めている。	理念に地域との関係性を盛り込むことを検討しているため、その取り組みに期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃、防災訓練、盆踊りなど地域と交流できるものはできるだけ参加させて頂いている	地域行事、活動への利用者の参加、事業所の避難訓練、クリスマス会への地域住民の参加と活発な相互交流が見られる。ボランティアによるアコーディオン演奏、お祭りでの子ども神輿来訪は利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材教育の貢献として実習生の受け入れをしています。又、地域より介護の相談を受けることがあればお話を聴き、アドバイス等の支援をしようと思っています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を行い利用者状況を報告し、災害対策、行事について討議している。包括、地域住民、家族に参加頂いている	家族、地域住民、職員、地域包括支援センター職員等多数の参加を得て開催され、利用者の状況や事業所の活動報告、災害対策等活発に意見交換が行われ、運営に活かしている。案内及び議事録は全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より電話や窓口で事業所運営やケアサービスの取り組みについての実情を伝える等、情報共有に努めている	行政担当者来訪時には利用者の生活状況等を伝えている。また不明な点があれば随時電話で、あるいは書類提出時に助言を得ている。さらにグループホーム管理者会議においても行政担当者との情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備し職員間で身体拘束の再確認をしている	外部研修を通し禁止の対象となる具体的な行為について理解し、身体拘束のないケアに努めている。玄関は夜間のみ施錠し、日中はモニター、夜間は光センサーで人の出入りを把握している。外出傾向の強い利用者も無理に制止せず、職員が付き添い外出している。(現在は落ち着いている。)	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に出席し会議などにおいて職員と勉強会をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に出席した資料を基に職員間で共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を十分に行い理解、納得頂いている。状態変化などの際は家族と面談し、対応方針を相談している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には全家族へ参加をお願いしている。家族来訪時には意見、要望など遠慮なく話して頂けるよう環境づくりをしている	家族の来訪は多く、来訪時は声かけし、意見、要望の把握に努め、申し送り、内部会議を通して職員間で情報を共有し、速やかに対応している。遠方の家族にもホーム便り(毎月)、個別ハガキ(随時)で利用者の近況を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内部会議、又は日頃の業務の中で職員から意見を聴く機会がある。不満や苦情などは個別に面談し意見、要望を聴くようにしている	職員からは内部会議、日常業務の中で、ケアに関する提案、勤務シフトなど忌憚なく意見、要望が上げられ、運営に反映するよう努めている。また行事の立案にも全職員が交代で携わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を整備		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれに研修が受けられるよう計画し実践している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者連絡会に参加し研修会などでも交流を深めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階では隠れている部分が徐々に見えてくることもあり、本人からの言葉、感情、表情、生活歴に目を向けながらコミュニケーションを通して関係づくりをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族来訪時の会話や表情などから心理を理解するよう努めており、事業所としてどのような対応ができるか話し合っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な話し合いの上、現状を理解し本人、家族がより良い状態になるよう支援の対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で利用者が出来ること、好むことを見極め、一緒に行動できるよう配慮し声かけをしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子や出来事など互いに連絡をとり、情報共有に努め、家族と同じような思いで支援していることを伝えている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、知人の訪問があり、ゆっくり過ごして頂いている	家族と共にお墓参りに出かけたり、馴染みの美容室に職員が送迎している。また家族、友人、知人来訪時は温かく迎え入れ、大切な人や場との関係が途切れないよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、表情、身体状況を見極めながら声かけや支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、今までどおりの対応をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの会話や表情・行動等から本人の意向や思いをくみ取り、職員間で情報交換しながら本人の希望に添える様に努めている。	職員は、利用者の表情、行動を良く観察し声かけすること、話を傾聴することを心がけている。また家族からも情報を得ながら思いや意向を把握している。入居前の生活リズムを尊重し、事業所の決まりを無理強いしないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴に関する情報を本人と家族から教えて頂き、利用者にとっての大切な出来事や思い出を把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの様子を見守り、声掛け、職員間での情報共有し、心身状態を把握する。一日の暮らしの中で個々のペースに合わせ出来る事は実行できるよう支援している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度、ケアマネジャーと職員が話し合い、気づきや情報を元に介護方法や方向性について考えています。	殆どの職員が参加する毎月の内部会議で検討し、利用者、家族の意向を確認の上、医療関係者の意見も取り入れ介護計画を作成している。介護計画は状況の変化に応じ随時変更している。個別記録が介護計画と連動するよう、事業所独自の書式の工夫がみられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の会話や表情・排泄、食事、水分摂取量等を個別の介護記録に記入し職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族などが訪問された時には、その時々時間帯でおやつ等、利用者やゆっくり食べて頂いています。お誕生会には家族と一緒に食事をして頂いています。散歩やリクレーション等本人の体調に合わせての外出をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事のお祭りや盆踊り、清掃や避難訓練、などにも参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が納得した医療機関を確保しており、週一度の看護婦による健康チェックと、月に一度の主治医による往診と病状に合わせて職員が通院介助をしています。	通院介助はほぼ職員が行っている。協力医による往診、提携看護師による健康チェックが定期的実施され、適切な医療を受けることができるよう支援している。職員は地域の避難訓練の中で救命救急講習を受講している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師の健康チェックをしています。日頃の様子や気付きなどを健康チェック用記録簿に記入して、相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には見舞いに訪れ、利用者の様子などを見に行き、家族と連絡を取り合い、担当のワーカー等からも情報交換を行う。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について事業所として対応できる最大限のケアについて、利用開始時に本人と家族に説明しています。主治医と連携を図り対応方針を家族と職員と共有し取り組んでいます。	重度化や終末期に向けた指針、同意書を作成し利用開始時に本人、家族に説明、同意を得ている。現在事業所での看取りは行っていないが、重篤時は家族、医療関係者と話し合いを重ねつつ対応方針を決定することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防隊による救命救急の研修に参加し応急手当を行える学習をし職員間でも定期的な勉強をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を地域の方々と行い、意見などを頂き活用しています。毎月自主訓練と毎日の自主点検を実施しています。地域住民の訓練に参加したり、緊急通報の協力が得られ、地域との協力体制を強化しています。	夜間想定避難訓練(年2回)、自主訓練(毎月)、防災点検(毎日)を実施している。地域の避難訓練、事業所の避難訓練に利用者、地域住民が相互参加し協力体制を築いている。水、食料など災害時備蓄品も準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考えその状況により言葉かけや対応をしています。自室への出入り時には声掛けをしています。	親しみを込めた中でも、利用者の思いを尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや対応を心がけている。面会簿、記録帳票類も適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話の中で本人の思いを引き出せるような声掛けをし自分で思っている事を言える様な対応をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿うよう、時間がかかってもして頂き、職員は本人の様子を見守りし、必要に応じて声掛けや介助をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室と一緒にいき自分の好みの髪型にしてもらっています。自分で着たい服を選んで着てもらったり季節の物を声かけたり見守りをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの出来る事を見極めて、その日のメニューを考えながら調理や盛り付けを支援しています。食事は職員と一緒にテーブルに座り、会話をしながら食べ、好み等を聞いたりしています	献立はその日に利用者の好みや要望も取り入れつつ決定し、職員と利用者が一緒に買い物、準備等を行い、和気あいあいと食事している。庭で収穫した野菜を使ったり、誕生日や季節の行事食、外食など、食事が楽しいものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の体調を考慮し一日分の水分摂取量を記録しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状況に合わせて毎食後、口腔ケアをしています。生薬入りの歯磨き粉を使っています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助は本人のプライドに配慮して行っています。利用者個々に合わせた排泄介助、声掛けをしています。日中、夜間、外出時等、用途に合わせてリハビリパンツやおムツを使い分けています	排泄の状況は個別記録に記載して利用者それぞれの排泄パターンを把握し、時間ごとに声かけ、誘導している。またその時の状況に応じてオムツ、リハビリパンツ、パット、布パンツを適宜使い分け、排泄の自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録など確認して主治医や看護師に相談しています。水分摂取など乳製品や寒天、繊維質の多い食品を取り入れています。適度の運動も行っています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を使い十分に温まって頂き香りなども楽しんでいます。洗身時に足浴もして温めています	週2回(火曜日、金曜日)の午前中に入浴している。入浴拒否のある利用者には、声かけの工夫や担当者、時間の変更等の対応をしている。入浴剤の使用、足浴、職員とゆっくり話をするなど寛いで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペース及び状況に応じた対応をしています。天候に合わせて空気の入れ替え、布団干しやシーツ交換をしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬剤箱・管理簿を作り服薬をセットした後は二重チェックをしている。服用時、本人確認のため名前を読みあげ手渡し、服用するまで見守ります		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しや食器拭きなど役割や張りにつながるように手伝って頂く。散歩、買い物、ドライブなど本人の希望を取り外出している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候にあわせて散歩をしている。季節に応じて花見や菖蒲園見学をしている。外食などは、ほぼ全員参加できる唯一の楽しみである	散歩、買い物、町内会行事への参加といった近隣の外出は日常的に行っている。また花見や外食等遠出の外出レクリエーションも頻繁に企画されている。さらに広い庭での外気浴、野菜の収穫など利用者が事業所の中に閉じこもらないよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の金銭出納帳で管理している。必要に応じて本人と相談して購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人からの電話や手紙の対応をしている。頂いたプレゼントのお礼に写真付き葉書を送る支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の多くは自由に居間で過ごされている。出窓から庭の季節の花の木を眺めてくつろいでおられる。利用者の手作りのタペストリーは季節感を採り入れている。不快にならないよう清浄機と除湿器の使いわけをしている	日当たりが良く、窓から庭の景観を楽しむことができる居間は、利用者の寛ぎの場所であり、職員と利用者で作成した季節の装飾や、写真等が飾られ、家庭的な雰囲気となっている。住居改造型の事業所なので浴室、階段等手狭な部分はあるが、手すりをつけるなど使い易く工夫している。温度、湿度にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	二階にテーブルと椅子を置いて自由な空間が作られている。昼食後は特に賑やかに談笑されている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた思い出の家具を使用して頂いている。本人の希望する絵や写真を飾り居心地良い部屋作りをしている	居室には袋棚、ベッド、タンスが備え付けとなっている。利用者は使い慣れた家具や思い出の品を自由に持ち込み、居心地良く安心できる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間・天候に合わせて照明を増やしている。特に夜間では二階の利用者のトイレの出入りをモニターで確認し、疑問時は入室して対応している		